

「ペトロとイスカリオテのユダ」

2014年06月15日

ペトロはガリラヤ湖の漁師でした。主イエスから「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と呼びかけられ、すぐに網を捨てて従いました。彼はガリラヤ人気質を受け継ぎ、決断力があり、血の気が多く、律儀な性格でした。主イエスに従う中で、愛に満ちた言葉を聞き、力強い業に触れ、ますます主イエスへの愛と信頼を深めていきました。彼の主イエスへの篤い思いは「あなたがたはわたしを何者だというのか」と問われた時、即座に「あなたはメシア（キリスト）です」と答えた応答に表れています。福音書は、ペトロの主イエスへの愛と信頼を滑稽とも思える受け答えの姿で描いています。

主イエスは十字架の死を決意して最後の晩餐を行います。そして、ゲッセマネに向かうオリーブ山を歩きながら「あなたがたは皆わたしにつまずく」と離散を予告します。すると、ペトロは力を込めて「たとえ、御一緒に死なねばなくなっても、あなたのことを知らないなどとは申しません」と信従の固い決意を表明します。その数時間後、主イエスが捕縛された時、弟子たちは皆、蜘蛛の子を散らすように逃げ去ります。その後、気になって尋問を受けている大祭司の庭に行きますが、そこで、ペトロは主イエスを知らない、関係ないと三度も否認します。オリーブ山で表明した決意は無残に崩れ去りました。その時、彼は「いきなり泣き出した」のでした。勇敢なペトロは挫折したのです。

ユダは他の弟子たちから一目も二目も置かれる弟子でした。しかし、主イエスの捕縛は避けられない状態にあることを察知したのでしょうか、エルサレム神殿当局に売り渡します。その理由は定かには分かりませんが、師を裏切ってしまいます。ところが、主イエスに十字架の死が宣告された時「わたしは罪のない人の血を売り渡し、罪を犯しました」と言って、自責の念に苦しみ、首をつって自死しています。

ペトロとユダの裏切りに関して、どのような違いがあったのでしょうか。ペトロは勇敢で、律儀な人でした。彼の性格から考えて、挫折の経験はユダの自責に劣らない深いものであったでしょう。ユダは責任を取って「自己完結」し、自死の道を選びました。ペトロは、途方もない自己嫌悪と絶望を味わいましたが、泣いて神に委ね、待つ道を選びました。そのペトロに復活した主イエスは出会ってくださいました。これは、赦されていることの証左です。彼は、こんな私をも「立て、立てる」と、赦してくださる福音に与ったのです。それ以後のペトロは、自分の力に頼る生き方から、神に生かされる人生を全うしています。

人は生きてきた過去を思う時、慙愧に耐えられず、顔をあげられない、死にたいと思うほど恥ずかしい。しかし、その罪にまみれた過去に対して、自分で自分を裁かず、明け渡す。それは、神に委ねるということです。すると神は、主イエスの十字架によって赦し、生きよと立ててくださる恵みの福音を示してくださいます。

私は、ユダも主イエスの赦しの中に置かれていると信じていますが、自己完結しないで、神に明け渡して生きるところに、新たな道が示されることを望むことが、信仰であると思っています。